

広がる支えあいの輪 在住外国人へ物資提供を

長引く不況により、働く場の確保が難しい状況が続いています。雇用環境の悪化が続き、日本人だけではなく、海外から働きに来ている人にも厳しい状況で、市内で暮らす外国の方も例外ではありません。そうした中、市内でも社会福祉協議会や国際交流協会などが連携、市内にお住まいの外国の方を支援する活動が始まっています。

生活に困窮する 外国人が急増 緊急支援を

当市には製造業を中心とした企業が多いことから、市内で住まわれる外国人の数も増加傾向にありました。市内に在住する外国の方は、平成21年12月末で2,863人となっており、市内人口の約3%を占めています。しかし、当市にお住まいの外国人

の数は、一昨年秋の世界同時不況以降減少しはじめ、昨年1年間で380人の減となりました。仕事を求めて他の県に転出された方、帰国を余儀なくされた方など、減少の理由はさまざまです。また、市内にお住まいの外国人の中には、今なお仕事が見つからず生活に困っており、困る方もいます。

これに対応するため、昨年1月には、県域の支援組織として「しが外国籍住民支援ネットワーク」が設立され、外国の方の生活を支援するための物資提供を呼びかけるなどの活動が始まりました。

皆さんから集まった 善意 850人も の外国人へ

現在、市内では、市社会福祉協議会が物資提供を呼びかけ、市国際交流協会などを通じて、外国の方へ提供されています。

市社会福祉協議会の各地域福祉活動センターには、昨年5月から今年2月までの間に、米約1,000キログラム、即席めん約150個などの食品や、紙おむつ、洗剤、文具などの生活用品が集まりました。これらの物資は、市国際交流協会や甲賀、湖南人権センターを通じて、延べ850人もの外国の方に届けられました。



▲歳末たすけあい募金により購入されたお米

今後、児童・生徒らが授業で使用するほか、指導にあたる先生方にも有効に活用されることを期待されます。

◀皆さんから集められた支援物資



▲「授業で活用を」と外国籍児童・生徒らに贈られた辞書

引き続き支援物資を 募集

市内で支援活動を展開される団体では、引き続き、次の物資の提供を呼びかけています。

- 収集物資／米、小麦粉、即席めん（袋・カップどちらでも可）、パスタ、缶詰類、砂糖、食料油、紙おむつ、粉ミルク など

※ 物資を提供いただける方は、お近

さらなる支援へ

こうした物資の提供により、多くの外国の方が助かっておられます。また、国や言葉の違いを越え、助け合い、支え合い、外国の方が安心して地域で生活できるよう、各機関・各方面でさまざまな取り組みが行われています。

しかし、市国際交流協会事務局長のおおかわらよしこは、「外国人の中には、言葉の壁もあり、仕事が見つからず悩んでいる方もおられます。ピンチだからこそ支え合うことが大切ですが、物資提供は一時的な支援にしかならず、と話を聞かれます。また大河原さんは、「外国の方をとりまく地域の課題は多く、これからも皆さんとともに、お互いに助け合い、活かしあう取り組みを考えていきたい」と続けられました。

外国人支援活動が進む一方で、今後のあり方も課題となっているようです。

くの地域福祉活動センターまでご連絡ください。

問い合わせ

甲賀市社会福祉協議会 地域活動支援部
062-800805 063-2021

問い合わせ 甲賀市国際交流協会
063-87208

幼稚園・保育園の適正規模及び 民営化等に関する基本的な考え方答申される

甲賀市幼保検討委員会から、2月22日に「甲賀市幼稚園保育園の適正規模及び民営化等に関する基本的な考え方」についての答申がありました。

この委員会では、次代を担う乳幼児が恵まれた環境の中で、就学前の教育・保育を受けることを主眼におき、適正規模や適正配置、さらには民営化のあり方について、客観的な観点から調査・検討を重ねていただきました。

教育委員会では、この答申を受け、今後の具体的な方策を検討していきます。

問い合わせ 子ども未来課 ☎ 86-8179 ☎ 86-8380

歳末たすけあい募金 で児童・生徒らに辞 書を配布

また昨年末に実施された歳末たすけあい募金の一部も外国人のための支援金として活用され、お米と外国語の辞書が購入されました。購入されたお米20俵は、市国際交流協会を通じて120人の方に配布されたほか、辞書（ポルトガル語など）54冊も同協会から教育委員会を通じて市内の小中学校の外国籍児童・生徒らに配布されました。

▼昨年の国際交流フェスタの様子

